

念願の世界メダルを獲得

世界マスターズオリエンテーリング大会 2012年7月1-8日 ドイツ

ついに念願の IOF のメダルを首にかけてもらうことができました。日本人がヨーロッパでフット競技の IOF メダルを獲得したのは初めてとのことで、感無量です。

2012年7月1-8日 ドイツ
世界マスターズオリエンテーリング大会



念願の IOF メダルをかけた高橋厚



スタート時刻が午後 2 時過ぎと遅いので、ラスポ、ラス前、あるいはその前と思われるコントロールまで、会場から見える範囲のフラッグの位置、競技者の動きなどをじっくり観察した。これは大変重要なことで、どこにコントロールがあり、どのように競技者が動き、どの方向に向かうか、事前によく見ておくことによってフィニッシュに近づいたときに無駄な動きをしなくて済むからである。

バート・ハルツブルクは 3 方を山で囲まれたような町で、一体どこで競技をやるんだろうと思っていたが、我々が泊っているホテルも、買い物に行くスーパーも含めた町全体がテレインだった。事前の立入禁止だとか、入ったら失格だとか、あまり神経質になる必要もないのだろう。

レースは途中の小公園に出た時、まず目に入った次のコントロールに先に行ってしまう、20 秒ほどのロス。20 秒でもスプリントでは致命傷になりかねないが、結果は 4 位だった。翌日の A ファイナルは予選順位の下位からスターするので、ラストから 8 人前、スペシャルゼッケンをつけてのスタートになることが決まった。

M80 の A ファイナル 40 名、B ファイナル 38 名と発表された。

スプリント決勝

決勝は隣町のゴスラーで行われた。ゴスラーは中世の木組みの家がたくさん残り、しかもそこで人々が生活している非常に趣のある町である。会場は、「皇帝居城」といわれるドイツに現存する宮殿様式の建物の中では最も規模が大きいと言われる城の前庭であった。傾斜のついた広々とした芝生が広がっていた。

予選の時と同様、ラスポ、ラス前あたりをよく観察する。ラスポは宮殿の左前にある独立樹だが、ラス前のコントロールは宮殿の前面にある長さ 80m ほどのテラスに 3 つほど置かれているらしい。近接なので間違えないようにしないと。心にとめていざスタートへ。

中世の複雑な町並みは非常に分かりにくい。今回もミスがあった。4 番から 5 番に向かうとき、中庭のような路地を通り抜けられると読んで行って行ったら行き止まりで慌てて引き返したが、往復 80m ほどのロス。円の切り欠き方が不十分で見誤ったのが原因。

コースの最終部分は宮殿の西側から丘を駆け登って宮殿の裏へ、そして迷わず宮殿の右(南側)から前面に回り込み、テラスのコントロールを 2 つ取ってからラストコントロールへ、そしてフィニッシュ。間もなく「…サードプレイス アツシタカハシ…」のアナウンスが聞こえてきた。やった～と思った。

巨大イベント・世界マスターズ

7月1日～8日にドイツ中部のハルツ地方で開催された世界マスターズオリエンテーリング選手権(WMOC)のスプリント種目のM80クラスで3位に入り、銅メダルを獲得した。このメダル獲得のを中心にして今年のWMOCの報告。

今年のWMOCには4300名もの多数のエントリーがあり、私が出たM80も何と84名のエントリーがあった。これほど多くの参加があったのもやはりヨーロッパの中心での開催だからだろう。

スプリント予選

前日のモデルイベントに続いて、予選がイベントセンターのあるバート・ハルツブルクの市街地で行われた。

M80クラスのエントリーは84名なので、ルールに従って予選は42名ずつの2ヒートに分かれ、それぞれ上位の半数がAファイナルに進むことになる。

スプリントの表彰式

決勝の当日午後6時30分から会場で行われた。表彰者には椅子が用意されていて、指定席になっている。主催者のあいさつの後、年齢の低いクラスから男女一緒に6名ずつ順に表彰。「ジャパン」とアナウンスされた時の拍手と歓声が少し大きかったように感じたのはやはり珍しいからなのでしょうね。お借りした日の丸の小旗を持って壇上へ。メダルを掛けていただき、花とクリスタルガラスの記念品を頂いて感激!

表彰者の中の有名人としては、ユリ・オメルチェンコ(確か1995年ドイツWOCショート優勝者)がM40の銀メダル、ヨルゲン・モルテンソンがM50の銅メダルなどがあった。え〜ヨルゲンと私が同じメダル? 何とも言えないくすぐったいような妙な感じがしたのはヨルゲンがあまりに有名だったからだろう。



私のスプリント過去実績

実は私のWMOCにおけるスプリント競技の経過は誠に惨憺たるものなのである。

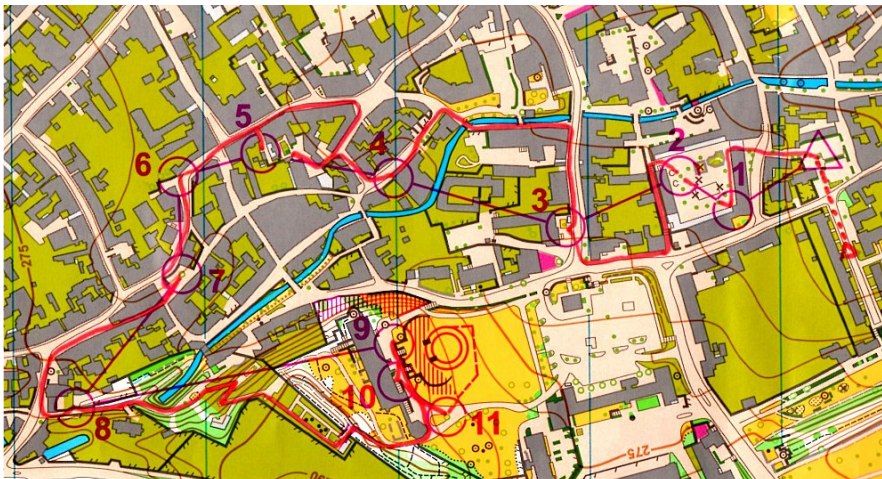
2008年(ポルトガル) ペナ。

狭い漁師まちの曲り角で走者と激突、何が何だか分からなくなった。

2009年(オーストラリア) ペナ。

完全なコントロール飛ばし。

2010年(スイス) 問題なし



2011年(ハンガリー) ペナ。

SIに記録なし。反応を確認せずに抜いてしまったらしい?

さすがにこれではまずいと反省し、必要なチェック事項や手順を研究し、何とか今年の好成績につなげることができた。

スプリント競技の要諦は、地図を細かくよくよく見て通れるところ、通れないところをしっかりと確認し、現地にあてはめて最短距離に行くことにある。建物の間に人ひとりがやっと通れる路地があったり、通れない柵があったり、建物で通れないと思ったが実は下を通り抜けできたり、これらを走りながら地図上で瞬時に確認し、判断してルートを決め、現地と照合してゆく、この作業を数秒ごとに繰り返してゆく。

次のコントロールはたいていの場合、建物ブロックの向う側にあつて、右を回っても左を回り込んでも同じに見えることが多いので、どちらが多少でも早いかこれも瞬時に判断しなければならぬ。止まって考えるくらいなら走ってしまった方が早いこともある。止まるか走るかも瞬時の判断。

ロング競技

2回の予選の合計タイムで決勝のクラスが決まる。私は予選1が8位、予選2が15位で、予選のタイム合計で16位となり、Aファイナルの真ん中より上にはなつたが、スペシャルゼッケンは逃してしまった。

そして決勝の成績は28位とAファイナルの真ん中より下位に転落。原因はドイツでありながらその北欧的なトレインに対応できなかったことにある。岩や湿地が多く、足元は不整地である上に岩くず・枝が多く、見通しがいいようで案外迂回が多い、といった北欧的な特徴のトレインにはいまだに適応できないでいる。

スプリントで1位だったR. Blom(SWE)がロングでは4位、2位だ

ったC. LladoがBファイナルに落ち、3位の私が28位にしかならなかったのを見ると、スプリントというのは山の中を走るロングなどとは技術的にはかなり別物という感じがしてならないのである。

まとめ

今回一番うれしかったのは、海外に行き始めたころには神様のように見えた北欧の人たちが、海外遠征を続けるうちに次第になんとか競合できる競争相手となり、対等の競える関係となり、さらにその上位の人たちと争えるようになり、今回ついに1位の1人(スウェーデン)を除いて彼らの上に立てたことです。長年の夢でした。

しかし本格的なオリエンテーリングであるロングで勝たなければ、本当に勝ったとはいえません。昨年のWMOC(ハンガリー)のロングではファイナル直前の事故で左ひざを強打し(帰国後お皿にひびが入っているのが分かった)、痛くて満足に走れなかったのに5位だったことから、テレインなどの条件によっては決して夢ではないと思っています。

またスプリント種目でも今回は銅メダルでしたので、まだ上に金銀2つあります。スプリントは国内外でトレインの違いによる差があまりなく、練習もしやすいと思われるので、どちらかといえば日本人向きかもしれません。皆さん、スプリント0の分野で一緒に頑張ってください。

私の記憶ではIOFのメダルは、日本にはこれまでに3個あったようです。うち2つは世界トレイル0選手権での銅メダルで、2005年(日本)の杉本光正と2009年(ハンガリー)の木村治雄、もう一つは2002年WMOC(オーストラリア)の磯谷忠彦さん(エントリー1名で完走)の金メダルです。従ってフット0で本格的にコンピートして獲得したのは初めてのことだろうと思います。

これを契機に海外の大会で、日本人ももっともっと上位にいけるようになることを期待して止みません。

最後になりましたが、参加したツアーの小林博文さんをはじめツアーの皆さんには大きなご支援を頂きました。厚くお礼を申し上げます。

(高橋 厚)

編集者注:

高橋厚さんの原稿のほかにも、2005年1月にスイスで行われたスキーオリエンテーリング世界マスターズ大会M65クラスで武石雄市が3位の銅メダルを獲得している。